2023年 9月 1日　作成
2023年11月3日　改訂

2022年度　環境経営レポート

【レポートの対象期間：2022年2月1日～2023年1月31日】

タマムラデリカ株式会社

群馬工場
（群馬県）

群馬第二工場
（群馬県）

佐野田沼工場
（栃木県）

美野里工場
（茨城県）

≪ご挨拶≫

タマムラデリカ株式会社は1991年創業以来、食品製造業として歩んで参りました。
大手CVS専用工場として「調理麺」「惣菜」等のデイリー商品を群馬県、栃木県、茨城県、埼玉県の北関東地域に365日供給しております。
安心、安全で美味しい商品を時代の変化やお客様のニーズに対応しながら提供し続ける事で信頼される企業を目指しております。
企業規模も年々拡大の一途を辿り、企業として益々社会的責任と環境配慮が問われていく事は必然であり、社会の公器としてしっかり対応していく事を義務として取り組んで参ります。
この様な社会情勢の中、当グループでも2015年より取り組みを開始したEA21活動は地球環境に優しい企業活動として大きな役割を担っており、グループ4工場全てがEA21認証工場として 現在に至っております。
継続した活動と検証無くして成長はないと考えており「環境経営レポート」は一年間の集大成であり自工場の成長の証と認識しております。
以下、取り組みをまとめましたので我々の活動内容をご高覧の上、ご指導頂きました後、引き続き環境活動に活かして参る所存です。

タマムラデリカ株式会社
常務取締役
髙橋　康之

≪目次≫

１．　環境経営方針

2.　事業活動の規模

3.　EA21推進体制

4.　群馬工場

① 事業活動の規模（2022年度）
② 環境目標とその実績
③ 環境活動計画の取組みと評価
④ 2022年度群馬工場トピックス
⑤ 代表者による全体の評価と見直し・環境関連法規制の遵守

5.　群馬第二工場

① 事業活動の規模（2022年度）
② 環境目標とその実績
③ 環境活動計画の取組みと評価
④ 2022年度群馬第二工場トピックス
⑤ 代表者による全体の評価と見直し・環境関連法規制の遵守

6.　美野里工場

① 事業活動の規模（2022年度）
② 環境目標とその実績
③ 環境活動計画の取組みと評価
④ 2022年度美野里工場トピックス
⑤ 代表者による全体の評価と見直し・環境関連法規制の遵守

7.　佐野田沼工場

① 事業活動の規模（2022年度）
② 環境目標とその実績
③ 環境活動計画の取組みと評価
④ 2022年度佐野田沼工場トピックス
⑤ 代表者による全体の評価と見直し・環境関連法規制の遵守

8．2022年度トピックス

9．代表者による全体の評価と見直し

１０．環境関連法規制の遵守

タマムラデリカ株式会社 環境経営方針

タマムラデリカ株式会社の「環境経営方針」は、
当社グループの全工場を含めた全社展開として適用する。

〔基本理念〕

タマムラデリカグループは、「食」を基本とする企業として
「健康的な生活」・「食資源の有効活用」・「環境保全」の三点を
我々の重要課題であると認識し、自然の恵みを活かし、
すべての人々がおいしく食べて、健康に暮らしていける
持続可能な社会の構築に貢献し、日本の食卓を豊かにしていきます。

〔基本方針〕

１．タマムラデリカグループの事業活動及び製品がかかわる環境側面を常に意識し、
環境汚染の予防を推進するとともに、環境経営システムの継続的改善を図ります。

２．タマムラデリカグループのすべての事業活動および製品がかかわる
環境関連法規、規制、および協定等を遵守し、環境保全を図ります。

３．環境改善重点テーマ
①食品廃棄物の排出量削減及び再資源化率の向上
⇒食品リサイクルの取り組み、食品の有効利用の取り組み
②エネルギー利用の合理化の推進と、低炭素社会の実現に向けた多角的取り組み
⇒多角的取り組みの一例
１）生産機器の排出熱利用
２）ヒートポンプの活用
３）高効率機器の導入
４）バイオマスエネルギーの活用
③水資源の有効活用および排水水質の維持管理
④地域の環境改善の推進
⑤環境関係法規の遵守
⑥廃棄の削減

４．年間計画に基づき、環境経営システムの見直しおよび維持向上に努めます。

５．環境教育を通して、全従業員への環境経営方針の理解と周知徹底を行い、
環境保全の意識の高揚を図ります。

６．この環境経営方針は、社内外にも公表いたします。

〔２０２２年度方針〕

１．ＥＡ21更新審査　認証
２．全工場　目標数値達成
３．環境省環境経営レポートコンクール入賞

２０２２年　2月　1日
タマムラデリカ株式会社
常務　取締役
髙橋　康之

２．タマムラデリカ株式会社　事業活動の規模（2022年度）

1.　事業所及び代表者名

タマムラデリカ株式会社
代表取締役社長　小島　尚之

2. 所在地
本社：〒370-1104　群馬県佐波郡玉村町上福島 611-1

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者　：　常務取締役　髙橋　康之
環境管理責任者　：　飯尾　友朗
ＥＡ２１事務局　：　二森　章夫
寺山　浩永
岩渕　匡浩
田所　進一
石島　千菜美
大関　祐

TEL　0270-65-0711
FAX　0270-65-1170

4. 対象範囲
タマムラデリカ株式会社
☆群馬工場
☆群馬第二工場
☆美野里工場
☆佐野田沼工場
全組織及び全活動

5. 事業の内容
コンビニエンスストア向けの調理麺・軽食・惣菜等の開発・製造

6. 事業規模
群馬工場・群馬第二工場・美野里工場・佐野田沼工場の合算

活動規模	単位	2019年（基準年）	2021年	2022年
生産高	食	43,242,462	39,950,671	40,264,150
製品売上	百万円	11,275	10,701	11,337
従業員数	人	818	1104	959
延べ床面積	㎡	15701.66	15701.66	16096.66

主な環境負荷実績

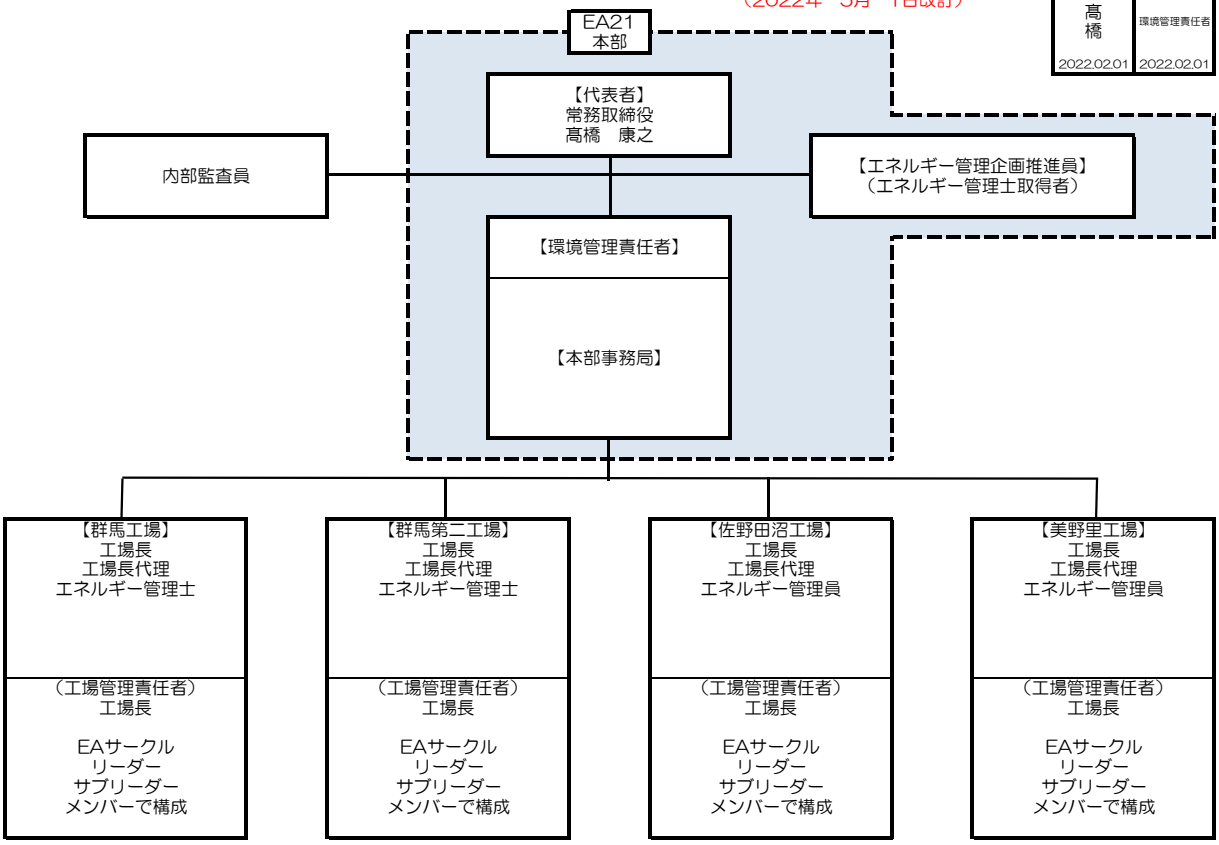
環境への負荷	単位	2019年（基準年）	2021年	2022年
①二酸化炭素排出量	kg-CO2	11,047,612	11,182,070	10,079,538
②廃棄物排出量	kg	2,201,485	1,805,605	1,242,025
③排水量	㎥	554,565	516,096	517,376
④食品廃棄物（100%リサイクル）	t	1650.14	1293.00	1285.94

2019年度より食品廃棄物は廃棄物排出量に含めています。

2022年度　タマムラデリカ株式会社　エコアクション21推進組織図

（2022年　2月　1日作成）
（2022年　5月　1日改訂）

承認	作成
髙橋 2022.02.01	環境管理責任者 2022.02.01



職名	役割
代表者	【常務取締役　髙橋　康之】 ①環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には、現在の責務に関わりなく兼任で責任と権限を明示する ②エコアクション21の運用･維持に必要な経営諸資源（人材・資金・機器・設備・技術・技能を含む）を準備する ③環境経営方針を制定する ④エコアクション21の運用に関する情報を収集し環境経営方針・環境経営目標をはじめシステム全体の見直しを行い必要に応じ改訂を指示する
エネルギー管理企画推進員	【エネルギー管理士取得者】 エネルギー管理に関する中長期計画をグループ全体へ発信、実施状況を確認する
内部監査員	エコアクション21食品関連業者向けガイドライン2017年版をもとに内部監査を実施する 各工場のＥＡ２１ＰＰチームリーダーが内部監査チェックシートで監査を実施、環境管理責任者へ報告する
環境管理責任者 工場管理責任者	【EA21本部：環境管理責任者】 【本社工場：工場長】【第二工場：工場長】【佐野田沼工場： 工場長】【美野里工場：工場長 】 ①エコアクション21に関する経営諸資源の合理的･効果的な運用を図り目的を達成するために環境管理をする ②エコアクション21の運用を円滑に行い代表者による見直しのための情報として運用に関する情報を代表者に提供する 環境に関する社内教育訓練資料を作成、適時見直しを行い各工場事務局へ配信する
本部事務局	本部事務局としてエネルギー管理企画推進員と環境管理責任者を補佐しエコアクション21に関するデータ全般を所管する 環境に関する社内教育訓練資料を作成、適時見直しを行い各工場事務局へ配信する
工場事務局	工場事務局として工場管理責任者を補佐しエコアクション21に関する実務全般を所管する 構成メンバーは経理部門社員が必須、工場管理責任者の兼務可 年2回（2月と10月）法規制一覧表に基づき法規制遵守状況を確認する
EAサークル	エネルギーと廃棄物に関する管理データをもとに小集団活動で改善を実践する 構成メンバーは工場管理責任者の兼務可
従業員	環境経営方針を理解し、部門の環境活動計画に従って活動する

群馬工場　事業活動の規模（2022年度）

1.　事業所及び代表者名

タマムラデリカ株式会社　群馬工場
代表取締役社長　小島　尚之

2. 所在地

〒370-1104　群馬県佐波郡玉村町上福島 611-1

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者　常務　取締役　髙橋　康之
工場管理責任者　上席執行役員工場長　小賀野　祐介
工場事務局　宮本　昌宏
TEL　：　0270-65-0711
FAX　：　0270-65-1170

4. 対象範囲

タマムラデリカ株式会社　群馬工場　全組織及び全活動

5. 事業の内容

コンビニエンスストア向けの調理麺・軽食・惣菜等の開発・製造

6. 事業規模

（群馬工場）

活動規模	単位	2019年（基準年）	2021年	2022年
生産高	食	11,867,895	11,751,110	11,370,427
製品売上	百万円	2,999	3,180	3,249
従業員数	人	249	337	360
延べ床面積	㎡	3,531	3,531	3,926

群馬工場　環境目標とその実績

当社に於ける2022/2/1～2023/1/31の環境負荷実績を把握し、
2022年～2024年迄の目標を下記の通り定め活動を開始しました。

1．環境目標とその実績

＊購入電力の排出係数：0.289（令和5年環境省提出用電気事業者別排出係数）
＊2022年の実績は、2022年2月～2023年１月の一年間です。

環境目標	基準値	今年度目標				中長期の目標（2年後）
	2019年	2022年				2024年
	実績	目標	目標値	実績	目標の達成状況	目標
①二酸化炭素排出量の削減(kg-CO_2)	125.6	2019年実績に対して12.8%削減	109.5	77.2	電気・重油・ＬＰＧの使用量は、売り上げの増加に対しに対し抑制ができている。2020年～2021年に工場の増築を行い、部屋数や設備の数は増えているが、旧設備に比較してエネルギー効率が良化された部分が大きく、昨年　本年と数値結果は良好であった。 特に麺の茹で釜を3台新しく入れ替えた部分のエネルギー効率が非常に良く、重油の削減に繋がっている。 ガソリン・軽油は増加しているが、2019年時点では送迎用バスやの記録が別に分かれていた為。今期からまとめて計上している。	67.3
②売上高100万円当たりの廃棄物 排出量の削減(kg/百万円)	166.5	2019年実績に対して10.6%削減	148.85	77.19	2022年の10月からゴミの減容機の使用を開始し、1日当たり250kgのゴミの減容を達成できている。月間で7.5トンの減容となった。 ゴミの水分を抜いて圧縮し廃棄している事も継続運用されています。 トップフィルムの商品を推奨し、ふたを無くしてフィルムにする事により廃棄の削減となった。	69.0
③排水量の削減(㎥)	51.41	2019年実績に対して2%削減	48.84	41.55	生産ラインの絞り込み、節水の意識から排水量削減となった。 うどんのみの製造から中華・そうめんなど多品種を行うにあたり、専用釜の使用頻度が増加したが、稼働開始時間の調整や同一釜の使用による削減を行った。 場内でも節水表示をピクト表示し、外国人作業者にも意識させた	40.71
④化学物質・毒物劇物取扱及び管理の徹底	—	取扱量の把握	—	—	一覧表作成済。入手したＳＤＳの整理とファイリングも実施済みであり、新規の商品のメンテナンスも実施し継続して行う。また、化学物質の特定と購入量のデータ集計を行っている	取扱量の把握
⑤再生利用等の実施（肥料化へ食品リサイクル：NDF）	100	維持向上（80%以上）	100%	100%	リサイクル率100%の実績。冷凍検体の分解や、プラ区分、区分けについてカをいれ、従業員一同意識が向上した。	維持向上（80%以上）
⑥地域の環境改善の推進・製品に関する項目	—	—	—	—	・工場内樹木の剪定を実施し落ち葉等のゴミ発生のリスクを回避、特に田植え前の実施 ・町の花火大会前・後にごみ拾いを実施 ・群馬県産の小麦を原料にした小麦を継続使用し、月別の使用量の集計を行っている	—

2．主な環境負荷実績

＊2022年の実績は、2022年2月～2023年１月の一年間です。

環境への負荷	2019年	2021年	2022年
①二酸化炭素排出量（kg-CO_2）	3,468,419	3,356,768	2,938,003
②廃棄物排出量(kg)	499,243	437,726	380,124
③排水量（㎥）	154,135	128,169	139,781
④食品廃棄物（100%リサイクル）（t）	363.66	352.20	259.73

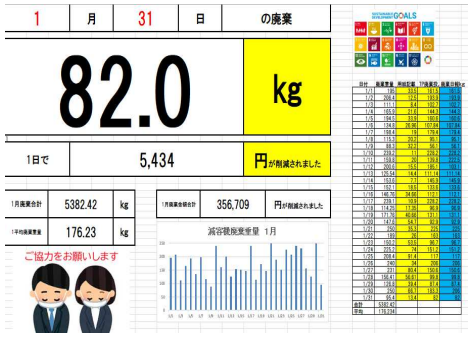
群馬工場　環境活動計画の取組みと評価

＊2022年2月～2023年１月までの活動の取組みと評価をしております。

環境活動計画	環境活動計画の取組結果とその評価
1．二酸化炭素排出量の削減	順調に推移し目標数値をクリアできている。 電気・重油などインフラ面の価格が高騰しており、節水・節電を推進しているが従業員の入れ替えも多く、教育が進まないので逐一教育する事と、社員が率先して取り組んでいく事を課題としています。
2．廃棄物排出量の削減	順調に推移し目標数値をクリアできている ゴミの減容機の使用や、廃棄物から水分を抜いた後に排出する事が大きな結果につながっている 従業員の入替が多く、ゴミの分別の教育が進まない状況も有るので逐一教育を進める事
	次年度の取組内容
	ごみ減容機の本格稼働と、さらなる分別　教育を行う
3．排水量の削減	順調に推移し目標数値をクリアできている。 節電・節水の意識が社員・従業員ともまだ低く、さらなる取り組みを行えば数値の上昇は可能と考える。
	次年度の取組内容
	節電節水の意識の向上　教育
4．化学物質・毒物劇物取扱及び管理の徹底	毒物劇物の扱いについて定位置表示と数量管理を行い、持出時に持出者と持出量の記録をおこなっている。
5. 再生利用等の実施率 （肥料化へ食品リサイクル：ＮＤＦ）	期待通りですので、継続できるように進めて行きます。
	次年度の取組内容
	排出量自体の削減へも取り組むことを期待します。
6.　地域の環境改善の推進・製品に関する項目	花火大会の時などに地域の美化活動を行っている。 こちらもまだ従業員の意識は低く、たまにごみなどが落ちている事もあるので周囲に迷惑をかけないようにする事

2022年度トピックス
群馬工場

ゴミの減容機を使用して、ごみの排出を抑える取り組みを行いました



地域のイベントなどで工場周辺のごみ拾い　環境美化に取り組んでいます

エコキャップ運動に取り組み　年間で28,500個交換しています

感謝状

タマムラデリカ株式会社 殿

あなたは開発途上国の子どもたちの笑顔と健康を守るワクチン支援活動に積極的にご参加くださいました
深く感謝の意を表するとともにあなたのお気持ちをワクチンと一緒に子どもたちに贈ることをお約束いたします

2023年2月6日

認定NPO法人
世界の子どもにワクチンを 日本委員会
理事長 [illegible]

ピクト表示を用いて節電節水に外国籍の方達にも理解頂いて進めました

地産地消に取り組み地域の粉や野菜を使った商品を推奨しています

節水中
節水にご協力ください

電源OFF
節電にご協力お願いします

群馬工場　代表者による全体の評価と見直し

（代表者）：常務取締役　髙橋　康之

群馬工場に於いては増改修工事が完了し場内のユーティリティー機器類の効率化が進んだこともCO2削減の一助と判断する。
又、CO2フリー電力導入も効果が出ており、取組に対して結果が得られた。
食品廃棄物排出量削減についても、ゴミ減容機現場運用が完全に定着し効果を発揮している。今後、他工場への水平展開を実施していく。
化石燃料使用量の削減については現場運用で取りこぼしている場面も多く、引き続きソフト面での運用改善を粘り強く取り組んでいく。
2023年に導入予定の廃食油ボイラーは2024年度からの本格運用開始を計画しており、効果検証を実施していく

（工場長）：工場長　摩庭　直哉

今期注目すべきは廃棄物排出量の削減とCO2排出量の削減。目標数値を大幅に達成できている。廃棄物については減容器を導入した効果が大きい。また、従業員さんが投入量を理解し協力してくれた点も評価したい。CO2削減については減容器に加え、茹で釜の入れ替えによるエネルギー効率が上がった事が大きく影響している。（重油使用量の減少）
来期についても継続して取り組む

環境関連法規制の遵守

1．当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	遵守事項	遵守状況
大気汚染防止法	ばい煙発生施設の届出・管理	遵法
水質汚濁防止法	特定施設の届出・管理	遵法
騒音規制法	騒音特定施設の届出・管理	遵法
振動規制法	特定施設設置の届出・管理	遵法
浄化槽法	保守点検実施、法定検査実施	遵法
廃棄物処理法	委託基準（契約書・許可証）、 マニフェスト交付・ 保存及び交付状況報告 水銀使用製品産業廃棄物の管理	遵法
消防法	届出・貯油施設の定期点検	遵法
PRTR法	使用量・購入量の把握	遵法
毒物及び劇物取締法	施錠管理、使用量把握、貯蔵場所の表示、漏、流出の防止	遵法
群馬県の生活環境を保全する条例	特定施設の届出・管理	遵法
玉村町公害防止協定	公害の防止	遵法
水道法	定期検査実施	遵法
省エネ法	措置の実践	遵法
フロン排出抑制法	簡易・定期点検	遵法
食品リサイクル法	発生抑制・再利用・熱回収・減量	遵法
容器包装リサイクル法	再商品化・帳簿保存・表示	遵法

2．環境関連法規への違反、訴訟等の有無
2023年2月1日の環境関連法規遵守状況の確認において、環境関連法規への違反はありません。
尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

群馬第二工場　事業活動の規模（2022年度）

1.　事業所及び代表者名

タマムラデリカ株式会社　群馬第二工場
代表取締役社長　小島　尚之

2. 所在地

〒370-1104　群馬県佐波郡玉村町上福島 618-2

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者　常務　取締役　髙橋　康之
工場管理責任者　上席執行役員工場長　小賀野　祐介
工場事務局　湯浅　篤史
TEL　：　0270-61-7888
FAX　：　0270-61-7889

4. 対象範囲

タマムラデリカ株式会社　群馬第二工場　全組織及び全活動

5. 事業の内容

コンビニエンスストア向け軽食・惣菜等の開発・製造

6. 事業規模

（群馬第二工場）

活動規模	単位	2019年（基準年）	2021年	2022年
生産高	食	5,801,797	6,574,081	7,306,687
製品売上	百万円	1,464	1,492	1,608
従業員数	人	151	215	220
延べ床面積	㎡	4,439.61	4,439.61	4,439.61

群馬第二工場　環境目標とその実績

当社に於ける2022/2/1～2023/1/31の環境負荷実績を把握し、
2022年～2024年迄の目標を下記の通り定め活動を開始しました。

1．環境目標とその実績

＊購入電力の排出係数：0.289 （令和5年環境省提出用電気事業者別排出係数）
＊2022年の実績は、2022年2月～2023年１月の一年間です。

環境目標	基準値	今年度目標				中長期の目標（2年後）
	2019年	2022年				2024年
	実績	目標	目標値	実績	目標の達成状況	目標
①二酸化炭素排出量の削減(kg-CO_2)	775.3	2019年実績に対して0.66%削減	770.2	1001.00	現場と事務所共に、照明器具、空調への節水節電の注意喚起の表示の作成を実施、事務所など各基準の明示を行なう事により、従業員の意識向上が見られた。　新規事業が開始し、使用機器の増加、工場稼働率が上昇。全体の数字については目標値に未達成。事務所や食堂にサーキュレーターを導入。また、室外機に日よけを設置するなどして、冷却効率向上につとめた。	994.39
②売上高100万円当たりの廃棄物排出量の削減(kg/百万円)	234.3	2019年実績に対して0.66%削減	232.8	175.66	食品残渣と端材野菜の区分けを徹底。また、廃棄食材を削減する取り組みを製造でも行っており、削減実績へとつながった。	174.5
③排水量の削減(㎥)	28.23	2019年実績に対して0.66%削減	28.04	20.60	社内の水道がある箇所は掲示してアナウンスし啓発に努められた。また清掃時にアルカリ電解水を利用することにより、清掃時における水使用量を削減できた。	20.46
④グリーン購入比率の向上(%)	—	購入品リストによるグリーン購入の徹底	—	—	必要備品や事務用品などを購入するときはグリーン購入に優先して選定できた。今後も継続に努めていく。	—
⑤化学物質・毒物劇物取扱及び管理の徹底	—	管理の徹底	—	—	一覧表の定期的な更新とＳＤＳの入手→整備の継続、購入量の集計。薬品の使用時の注意ポイントを落とし込みを継続する。	管理の徹底
⑥再生利用等の実施（肥料化へ食品リサイクル：NDF）	100%	維持向上（80%以上）	100%	100%	リサイクル率100%の実績。冷凍検体の分解や、プラ区分、区分けについて力をいれ、従業員一同意識が向上し継続に努めていく。	維持向上（80%以上）
⑦地域の環境改善の推進・製品に関する項目	—	—	—	—	計画的に沿って環境清掃が出来た。工場内の樹木の剪定を実施、落ち葉等、ゴミの回避。地産地消の促進は出来ていない。	—

2．主な環境負荷実績

＊2022年の実績は、2022年2月～2023年１月の一年間です。

環境への負荷	2019年（基準年）	2021年	2022年
①二酸化炭素排出量（kg-CO_2）	1,135,931	1,227,506	1,449,355
②廃棄物排出量(kg)	316,174	279,605	282,461
③排水量（㎥）	41,400	30,601	33,124
④食品廃棄物（100%リサイクル）（t）	223.83	227.11	233.37

群馬第二工場　環境活動計画の取組みと評価

＊2022年2月～2023年１月までの活動の取組みと評価をしております。

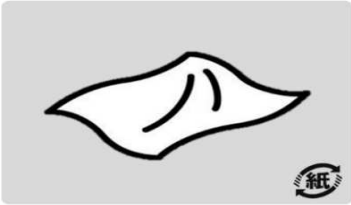
環境活動計画	環境活動計画の取組結果とその評価
1.二酸化炭素排出量の削減	半熟たまごの製造や、カップデリアイテムの製造により、工場稼働時間、機器の使用時間なども伸びており、比例して使用エネルギーも増えている。
	次年度の取組内容
	使用機器の計画的使用。 不必要電力の積極的削減。
2.廃棄物排出量の削減	工場内において分別意識が定着しており、目標は達成。 従業員の入れ替えも毎年起こる為、継続的に教育を実施。
	次年度の取組内容
	分別教育の継続。
3.排水量の削減	清掃時の節水の実施などから、目標は達成。 工場内表示を一新したことなどから、節水に対する意識も保たれている。
	次年度の取組内容
	清掃時のアルカリ電解水の使用の励行。 節水教育の継続。
4.グリーン購入の推進	グリーン購入に関する意識、徹底ができていなかった。
	次年度の取組内容
	使用率などを鑑みて、グリーン購入を進める。
5.化学物質･毒物劇物 取扱及び管理の徹底	毒物劇物の扱いについて定位置表示と数量管理を行い、持出時に持出者と持出量の記録をおこなっている。
	次年度の取組内容
	上記項目の継続と徹底。
6.再生利用等の実施率 （堆肥化へ食品リサイクル：ＮＤＦ）	100%再利用できている為、継続。
	次年度の取組内容
	排出量の削減に努める。
7.地域の環境改善の推進 ・製品に関する項目	地域美化活動の実施。
	次年度の取組内容
	製品としても地産地消を推進し、地域活動を実施できるようにする。

2022年度トピックス
群馬第二工場

ゴミ箱分別表示の強化

プラスチック類
plastic
plástico
nhựa
хуванцар
ប្លាស្ទิក

生ゴミ
kitchen garbage
lixo de cozinha
rác tươi sống
гал тогооны хог
សំរាមផ្ទះបាយ



紙
paper
papel
giấy
цаас
ក្រដាស

ゴミ箱への表示の強化。
外国籍の方でもわかりやすいように、イラスト、多言語で

群馬第二工場　代表者による全体の評価と見直し

（代表者）：常務取締役　髙橋　康之

2022年は製造量が大きく伸長し、新たなカテゴリー(半熟卵製造)が追加された事でCO2排出含めユーティリティー使用量全般が増加した事は事実である。
今後更に製造数の増加が見込まれ、売上、収益に期待出来る工場。
従って、過去のやり方を踏襲しても効果は期待出来ない。
2023年度ハード面ではオンサイトPPA及びCO2フリー電力の導入で削減検証を行い、ソフト面ではユーティリティー使用(ボイラー、空調)のオンオフを確実に実施、加熱調理機器が最も多い工場なので給排気バランスも見直しをかけて室内環境(適温)も見直していく。

（工場長）：工場長　摩庭　直哉

第二工場の得意とする食材管理は良く取り組めており、結果として廃棄食材の削減に繋げられている。二酸化炭素の排出量については新規事業の稼働が本格化したことで、増加してしまっている。また、排水量の削減は従業員さんの協力のほか、アルカリ電解水の導入による清掃時の節水が効果として出ている。昨年課題となった従業員さんへの啓蒙活動については外国人従業員さんにも理解してもらえるよう多言語化と画像を貼り付ける等の工夫が行えた。次年度も引き続き取り組みを継続していく。

環境関連法規制の遵守

1．当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	遵守事項	遵守状況
水質汚濁防止法	特定施設の届出・管理	遵法
騒音規制法	特定施設の届出・管理	遵法
振動規制法	特定施設の届出・管理管理	遵法
玉村町公害防止協定	公害の防止	遵法
浄化槽法	保守点検実施、法定検査実施	遵法
消防法	特定施設の届出・管理	遵法
PRTR法	使用量・購入量の把握	遵法
毒物及び劇物取締法	施錠管理、使用量把握、貯蔵場所の表示、漏、流出の防止	遵法
水道法	定期検査実施	遵法
フロン排出抑制法	簡易・定期点検	遵法
食品リサイクル法	発生抑制・再利用・熱回収・減量	遵法
容器包装リサイクル法	再商品化・帳簿保存・表示	遵法
廃棄物処理法	委託基準（契約書・許可証）、 マニフェスト交付・ 保存及び交付状況報告 水銀使用製品産業廃棄物の管理	遵法
労働安全衛生法	健康診断の実施	遵法

2．環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2023年2月1日の環境関連法規遵守状況の確認において、環境関連法規への違反はありません。

尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

美野里工場　事業活動の規模（2022年度）

1.　事業所及び代表者名

タマムラデリカ株式会社　美野里工場
代表取締役社長　小島　尚之

2. 所在地

〒319-0136　茨城県小美玉市手堤198

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者　　常務　取締役　　髙橋　康之
工場管理責任者 工場長　　山本　塁
工場事務局　　岩渕　匡浩
TEL　：　0299-36-7611
FAX　：　0299-36-7612

4. 対象範囲

タマムラデリカ株式会社　美野里工場　全組織及び全活動

5. 事業の内容

コンビニエンスストア向けの調理麺・軽食・惣菜等の開発・製造

6. 事業規模

（美野里工場）

活動規模	単位	2019年（基準年）	2021年	2022年
生産高	食	12,499,773	11,296,053	10,680,009
製品売上	百万円	3,531	3,305	3,283
従業員数	人	285	317	220
延べ床面積	㎡	3169.85	3169.85	3169.85

美野里工場　環境目標とその実績

当社に於ける2022/2/1～2023/1/31の環境負荷実績を把握し、
2022年～2024年迄の目標を下記の通り定め活動を開始しました。

1．環境目標とその実績

＊購入電力の排出係数：0.433 （令和5年環境省提出用電気事業者別排出係数）

＊2022年の実績は、2022年2月～2023年１月の一年間です。

環境目標	基準値	今年度目標				中長期の目標（2年後）
	2019年	2022年				2024年
	実績	目標	目標値	実績	目標の達成状況	目標
①二酸化炭素排出量の削減(kg-CO_2)	887.6	2019年度に対して1%減	878.6	822.2	製造機器（茹で機・製麺機）の高効率危機への入れ替え、現場巡回による無駄な電力使用の削減を製造部署へ呼びかけた。 チラー水生成装置の冷凍機稼働台数調整、既存の蛍光灯をLED照明へ順次入れ替えを行った。	814.0
②売上高100万円当たりの廃棄物排出量の削減(kg/百万円)	40.4	2019年度に対して1%減	39.9	35.3	製造食数が減少したことが要因の一つとして挙げられるが、リパック率の減少に伴う生産性の向上により包材使用量の削減に繋がった。また、品質管理の検査容器の変更に伴う排出量の削減が出来た。	35.0
③排水量の削減(㎥)	51.4	2019年度に対して1%減	50.8	55.8	排水量が増えてしまっている事は、茹で機の入れ替えにより、茹で釜の容量が大きくなった事が要因の一つとして挙げられる。 また、現場巡回中に清掃作業中の水の出しっぱなしが散見された。	55.3
④グリーン購入比率の向上(%)	―	現状把握	―	―	備品等を購入する際にグリーン購入対象製品を優先的に購入し、購入金額の集計を行うようになったが、購入品のリスト作成、購入品全てのグリーン購入率を把握するまでは至らなかった。	現状把握
⑤化学物質・毒物劇物取扱及び管理の徹底	―	管理の徹底	―	―	新規の薬剤等を購入・使用する際は必ずSDSを入手し、化学物質の含有量について調査・確認と薬物に関する法令確認を行い、年間の購入量と在庫管理を行う事で使用量の把握が出来た。	管理の徹底
⑥再生利用等の実施（肥料化へ食品リサイクル：NDF）	100%	維持向上（80%以上）	100%	100%	食品残渣の堆肥化リサイクル100%と実施の継続、産業廃棄物の分別・表示及び分別出来るよう置き場を設置しているが、分別が不十分な所もある。 食品残渣に関しては、飼料化について検討している。	維持向上（80%以上）
⑦地域の環境改善の推進・製品に関する項目	―	―	―	―	敷地内外の清掃を計画通り行った。常陸秋そば粉を使用し、地産地消を意識した商品開発・販売を行う。地元キャベツや長ネギの使用により地域への貢献も出来た。 フードロス対策として、食材寄付を月1回以上行った。	―

2．主な環境負荷実績

＊2022年の実績は、2022年2月～2023年１月の一年間です。

環境への負荷	2019年（基準年）	2021年	2022年
①二酸化炭素排出量（kg-CO_2）	3,313,447	3,159,316	2,699,000
②廃棄物排出量(kg)	750,730	606,490	115,590
③排水量（㎥）	181,687	192,295	182,929
④食品廃棄物（100%リサイクル）（t）	607.94	477.53	468.63

美野里工場　環境活動計画の取組みと評価

＊2022年2月～2023年１月までの活動の取組みと評価をしております。

環境活動計画	環境活動計画の取組結果とその評価
1．二酸化炭素排出量の削減	全体として目標は達成できたが、導入している機器（エネフューチャーやペレットボイラー）に関して検証不足なので追加検証必要。例えばLPGは、温水利用により削減されるはずだがそうなってはいない。その理由を明確にしたい。 また、新規導入したAライン茹で釜には冷却装置が付いている為、チラー水冷却機器の運転を見直し、効率を上げる必要がある。ガソリン等自動車燃料に関しては、特技生の送迎の見直しが行われるので車両運行管理も見直しが必要となる。
2．廃棄物排出量の削減	リパック率の減少に伴う生産性の向上により包材使用量の削減に繋がった。また、品質管理の検査容器の変更に伴う排出量の削減にも繋がっている。 しかし、その他の廃棄の分類では（鉄くず）取り組み進捗がないので計画を作り進捗を確認していく事。
3．排水量の削減	排水量が増えてしまっている事は、茹で機の入れ替えにより、茹で釜の容量が大きくなった事が要因の一つとして挙げられるが冷却槽に冷却ユニットが設置されているのでチラー水の削減、使用量の見直しが必要。 また、現場巡回中に清掃作業中の水の出しっぱなしが散見されているので現場での節水に対する意識の工場が必要。
4．グリーン購入の推進	リストを元に購入率を算出し検証を進める事。 新規に購入時の商品の選定を必ず行う事。
5．化学物質・毒物劇物 取扱及び管理の徹底	引き続き継続する事。 新規薬品の取り扱い、保管状況など定期的に確認する事。 SDS入手厳守
6．再生利用等の実施率 （肥料化へ食品リサイクル：NDF）	分別管理を再度構築し継続する事。
7．地域の環境改善の推進・ 製品に関する項目	常陸秋そばの取り組みを継続して進めること。 小美玉市社会福祉協議会への原材料寄付が定着しているので改めて地域とのつながりを進めること。 地域貢献として外周の清掃エコアクション21チームだけでなく工場全体で行う事。

2022年度トピックス
美野里工場

CO2削減

・例年に引き続きペレットボイラーを活用の継続。
・エネフューチャーの導入、空調機、冷凍機に設置。
・各部屋の空調機のフィルターの清掃を実施致しました。

エコキャップ運動に

・高浪化学株式会社様に24kg引き取り実施、寄付を行っています。高浪化学株式会社様にウェブサイトに寄付実績が紹介されています。

地域

・地域貢献として工場外周のゴミの回収を行いました。

美野里工場　代表者による全体の評価と見直し

（代表者）：常務取締役　髙橋　康之

設備導入(新茹で釜、ペレットボイラー、エコフューチャー等々)に対しての数値検証が進んでおらず、費用対効果が曖昧である。
課題として担当者の育成が急務であり、EA21本部事務局、エネルギー管理士を中心に支援していく。特にペレットボイラー活用については化石燃料使用量削減に対して確実に有効な手段といえる。メンテナンス含めた燃焼サイクル設定を見直して的確に運用していく。
又、活動取組も美野里工場全従業員を巻き込む仕組みを構築出来なかった事は大きな反省として次年度改善していく(声掛けと選任化を検討の事)。

（工場長）：　山本　塁　2023年 9月 1日

取り組み内容が明確であったが、検証が不足していた。活動自体も単発になっており、継続ができず持続可能な体制を構築できずに進んでしまった。特に数字検証が曖昧で、二酸化炭素や廃棄物排出量など、成果が出ていたにもかかわらず、数字で見える化できなかったことで、従業員全体での取り組みとして行う事ができなかった。ペレットボイラーに関しても有効なエネルギーであるが、燃料サイクルを確立することができなかった。廃棄物にてプラ削減にシャーレからフィルムに変更した等の取り組みは評価できるが、数字検証に課題が残る。排水量の削減は未達の為、今後の課題となる。工場全体で取り組むことが大きな課題となる。

環境関連法規制の遵守

1．当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	遵守事項	遵守状況
騒音規制法	特定施設の届出・管理	遵法
水質汚濁防止法	特定施設の届出・管理、環境計量証明書	遵法
浄化槽法	保守点検実施、法定検査実施	遵法
PRTR法	使用量・購入量の把握	遵法
消防法	危険物貯蔵取扱い届出、防火管理者の届書、消防用設備等設置届書、消防計画作成（変更）届書	遵法
廃棄物処理法	委託基準（契約書・許可証）、マニフェスト交付・保存及び交付状況報告　水銀使用製品産業廃棄物の管理	遵法
毒物及び劇薬取締法	施錠管理、使用量把握、貯蔵場所の表示、漏れ流出の防止	遵法
水道法	定期検査実施	遵法
省エネ法	措置の実践	遵法
フロン排出抑制法	簡易・定期点検	遵法
食品リサイクル法	発生抑制・再利用・熱回収・減量	遵法
容器包装リサイクル法	再商品化・帳簿保存・表示	遵法

2．環境関連法規への違反、訴訟等の有無
2023年2月1日の環境関連法規遵守状況の確認において、環境関連法規への違反はありません。
尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

佐野田沼工場　事業活動の規模（2022年度）

1.　事業所及び代表者名

タマムラデリカ株式会社　佐野田沼工場
代表取締役社長　小島　尚之

2. 所在地

〒327-0323　栃木県佐野市戸奈良町２５０４番地１

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者　常務　取締役　髙橋　康之
工場管理責任者　工場長　篠崎　勇
工場事務局　生産管理課係長　田所　進一
TEL　：　0283-85-7711
FAX　：　0283-85-7117

4. 対象範囲

タマムラデリカ株式会社　佐野田沼工場　全組織及び全活動

5. 事業の内容

コンビニエンスストア向けの調理麺・軽食・惣菜等の開発・製造

6. 事業規模

（佐野田沼工場）

活動規模	単位	2019年（基準年）	2021年	2022年
生産高	食	13,072,997	10,329,427	10,907,027
製品売上	百万円	3,281	2,724	3,197
従業員数	人	133	155	159
延べ床面積	㎡	4561.20	4561.20	4561.20

佐野田沼工場　環境目標とその実績

当社に於ける2022/2/1～2023/1/31の環境負荷実績を把握し、
2022年～2024年迄の目標を下記の通り定め活動を開始しました。

1．環境目標とその実績

＊購入電力の排出係数：0.433 （令和5年環境省提出用電気事業者別排出係数）
＊2022年の実績は、2022年2月～2023年１月の一年間です。

環境目標	基準値	今年度目標				中長期の目標（2年後）
	2019年	2022年				2024年
	実績	目標	目標値	実績	目標の達成状況	目標
①二酸化炭素排出量の削減(kg-CO_2)	3308.4	2019年度に対し12.8%削減	2884.9	2993.1	二酸化炭素排出量が9.53%削減できているが、目標に対して未達になっている。2021年ヒトの入れ替りにより運用で電気使用量が0.67%増加。教育を含め改善していく。今後、省人化、効率化などを検討し設備投資を行うため、電気使用量は増える可能性がある。2021年3月にガスをLPGから都市ガスに切り替え。2022年からの円安、燃料費の高騰の影響により、増収増益を目指すために商品を増やす可能性がある。	2249.7
②売上高100万円当たりの廃棄物排出量の削減(kg/百万円)	185.3	2019年度に対し10.6%削減	165.7	145.1	売上100万円当り廃棄物が21.71%減少できており目標達成。引き続き、ゴミの分別を強化して3R活動に取り組み、物を大切に使い、ゴミを減らす。使えるものは、繰り返し使う。ゴミを資源として再び利用する。を意識向上していく。まだ減らせると考え、更なる削減に取り組みたい。	131.5
③排水量の削減(㎥)	177.3	2019年度に対し5.0%削減	168.5	161.5	排水量が8.93%削減できている。従業員への節水のアナウンス、現場水使用の基準表示の作成を進め、水の使用量の過多を未然に防ぐ取り組みを進めていく。	159.5
④グリーン購入比率の向上(%)	-	現状把握	-	-	購入品が多いため、製品やサービスを購入する時に、必要かどうかをよく考えて、値段や品質、利便性、デザインだけでなく環境のことを考え、環境への負荷ができるだけ小さいものをグリーン購入適合品で購入を検討。ファイルなど廃棄の際に可燃物と金具など分別できるものかを検討してからの購入。	現状把握
⑤化学物質・毒物劇物取扱及び管理の徹底	-	取扱量の把握	-	-	・年間を通して溶剤等の購入量把握ができた ・今後SDS(安全データシート)を活用して、ばく露した際の応急処置、取扱方法、保管方法などを教育浸透していく。 ・保護具などの見直しをしていく。	取扱量の把握
⑥再生利用等の実施（肥料化へ食品リサイクル：NDF）	100%	維持向上（80%以上）	100%	100%	・植物性残渣リサイクル率100%ゴミの分別ルールの徹底、各部署での朝礼のアナウンスにより従業員の意識向上をしていく。	維持向上（80%以上）
⑦地域の環境改善の推進・製品に関する項目	-	-	-	-	・地域貢献として工場周辺のPPチームを中心としたゴミ拾い活動をした。 ・自動販売機ゴミ箱にエコキャップ回収箱を設置し、ワクチンキャップ活動を年間を通してできており、従業員の意識向上ができてきている。	-

2．主な環境負荷実績

＊2022年の実績は、2022年2月～2023年１月の一年間です。

環境への負荷	2019年（基準年）	2021年	2022年
①二酸化炭素排出量（kg-CO_2）	3,308,469	3,222,577	2,993,180
②廃棄物排出量(kg)	608,120	436,580	463,850
③排水量（㎥）	177,375	163,541	161,542
④食品廃棄物（100%リサイクル）（t）	454.71	314.01	324.21

佐野田沼工場　環境活動計画の取組みと評価

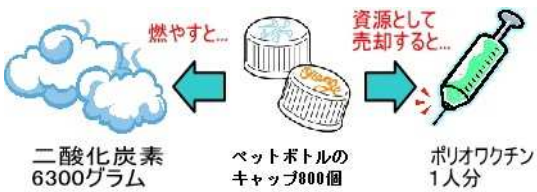
＊2022年2月～2023年１月までの活動の取組みと評価をしております。

環境活動計画	環境活動計画の取組結果とその評価
1．二酸化炭素排出量の削減	日々のムダが無いかを検証して行く。例をあげれば冷暖房の設定温度の確認、現場での温水冷水の適正使用、垂れ流しが無いか、流量が適正であるか、機械の稼働タイミングが早すぎないか、製造していない時の機械稼働状況を時間帯管理者が巡回確認しタイムリーな指示を行う。 更に環境目標や省エネ活動は見える化の取り組みとして、会議体での発表機会も増やしていきたい。
2．廃棄物排出量の削減	フードロスの取り組みとして現場での過多製造、適正払い出し、適正盛り付けを推進する事で原材料費の削減にもつながる。 活動の見える化としての掲示物、情報共有を行い、従業員の意識向上を図っていく。 各部署毎、過多製造の重点食材を抽出し削減取り組みしたい。食材を有効活用出来る様な商品開発も「視野に入れる。
3．排水量の削減	現場での機械稼働時間の適正化が出来ていない、稼働開始時間、使用しない時は速やかに運転停止をする。排水量が多い＝水の使用量が多いを再度周知させ改善を促す事を継続的に行い、節水を習慣化させて行きたい。
4．グリーン購入の推進	グリーン適合品で運用出来る物は購入して行きたい。 グループ間での情報共有で水平展開していく。
5．化学物質・毒物劇物 取扱及び管理の徹底	仕組みとして、定着できている。引き続き、年間を通して溶剤等の購入量の把握を行っていく。
6．再生利用等の実施率 （肥料化へ食品リサイクル：NDF）	引き続き、ゴミ分別ルールの徹底などに取り組みリサイクルを行っていく。排出量減少につながる取組を進める。 実習生、特定技能へは私生活でのゴミ分別を指導し、意識向上を図る。
7．地域の環境改善の推進・ 製品に関する項目	前年度に引き続き、ゴミ拾い活動、エコキャップ回収については、会社全体の取り組みとして実施できた。 1人でも多くの参加を呼びかけ、更なる意識向上を目指したい。

2022年度トピックス（１）
佐野田沼工場

①ワクチンキャップ運動の取り組み
継続してきた２０２０～２０２２年の実績

22年度　約15050個　重さ35.0ｋｇ　ワクチン　17.5本
累計　　約81700個　重さ190.0ｋｇ　ワクチン114.3本



②今年度も地域の環境改善の推進として、
PPチームが中心となって地域のクリーン活動をしました。

第１回 ２０２２年　３月３１日
第２回 ２０２２年 ９月２７日
第３回 ２０２２年１１月２７日

工場周辺のクリーン活動①

工場周辺のクリーン活動②

工場周辺のクリーン活動③

ごみの分別作業

③とちぎSDGｓ推進企業登録

ＳＤＧｓ達成に向け意欲的な企業活動に取り組む企業等が
「環境」「社会」「経済」の３側面で宣言した内容について登録する制度です。

2022年度トピックス（2）
佐野田沼工場

④二酸化炭素排出量の削減

① 空調温度適正化・表示
② 照明不要時のOFFの推進
③ エアコン清掃の実施
④ エコドライブ推進
⑤ 社用車の点検・整備
⑥ 電力、ガソリン量の集計

⑤廃棄物排出量の削減

① 分別ルールの徹底
② 廃棄物置場の整備
③ 廃棄物排出量の集計
④ 裏紙廃棄ルールの徹底

従業員への周知徹底をしております

⑤ゴミ分別の従業員周知徹底

① 工場敷地内の清掃
② 廃棄物置場の分別

佐野田沼工場　代表者による全体の評価と見直し

（代表者）：常務取締役　髙橋　康之
大きな設備導入やシステムに頼らず、従業員を巻き込んだチーム力で継続した小集団活動の展開は定着している。
工場周辺の定期的な清掃活動、場内での啓蒙活動は佐野田沼ONEチームで取り組む姿勢を高く評価する。
又、2022年度のタマムラデリカEA21アワードでは廃プラ削減を考慮した商品開発の提案として佐野田沼工場開発課がグランプリを獲得、商品開発の観点からもエコに貢献した。
課題として若手・中堅の設備実務者の育成と増強を計画し、昨年実施した省エネ診断結果を具現化出来る人財を、企業として確保していく。

（工場長）：　篠崎　勇　2023年８月25日

燃料費高騰が工場の収支にも影響を与えている。従業員に対する節電節水へのアナウンスは継続して行っているものの、外国人従業員も多く、浸透していないのが事実である。教育イコール躾という観点から根気強く教育し、意識を高めて行きたい。そのためには工夫も必要であり、多言語での掲示物、動画マニュアルアプリの活用も取り入れ、ルール化も進めて行く。重点取り組みとして温水冷水使用を抑える事、製造していない時の機械稼働を管理して行く。また環境へ配慮を重んじ、可燃ごみ・食物残渣の削減を心掛けて行きたい。お金を掛けてでも取り組む事、そうでない事を工場として明確にして改善に努めたい。

環境関連法規制の遵守

1．当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	遵守事項	遵守状況
水質汚濁防止法	特定施設の届出・管理	遵法
騒音規制法	特定施設の届出・管理	遵法
振動規制法	特定施設の届出・管理	遵法
浄化槽法	保守点検実施、法定検査実施	遵法
廃棄物処理法	委託基準（契約書・許可証）、 マニフェスト交付・ 保存及び交付状況報告 水銀使用製品産業廃棄物の管理	遵法
消防法	届出・貯油施設の定期点検	遵法
PRTR法	使用量・購入量の把握	遵法
毒物及び劇物取締法	施錠管理、使用量把握、貯蔵場所の表示、漏、流出の防止	遵法
省エネ法	措置の実践	遵法
水道法	定期検査実施	遵法
フロン排出抑制法	簡易・定期点検	遵法
食品リサイクル法	発生抑制・再利用・熱回収・減量	遵法

2．環境関連法規への違反、訴訟等の有無
2023年2月1日の環境関連法規遵守状況の確認において、環境関連法規への違反はありません。
尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

2022年度トピックス

エコアクション21年間表彰

【タマムラデリカEA21アワード2022】の表彰

【目的】

エコ活動表彰を公正かつ円滑に行うとともに、エコ活動の功績をたたえることで、
活動に対する意欲向上、士気の高揚および活動の改善を促すことを目的とする。
タマムラデリカ株式会社に勤務するすべての従業員に適用し表彰対象はチーム単位とする。

【選考方法】

表彰の対象工場および表彰方法は、表彰審査委員会で審査のうえ、最高責任者が決定する。

【第4回グランプリ】

商品開発部
トップシュリンク化

【選考理由】

構想から5年、テスト販売～北関東全域に繋げた事は評価、又、北関東から来期商品政策として全国へ発信した功績は高い、期間が2か月余りと少ないが継続して推奨している事、その後の推奨もアイテムも決定している事並びにエコ・経費削減の観点でも評価。

賞状

エコアクションアワードグランプリ
商品開発部
リーダー　古谷　邦彦　殿

貴チームは「トップシュリンク化」において会長賞の活動で顕著な結果をおさめ当社の環境経営に著しく貢献された功績を称え、ここにエコアクションアワードグランプリとして表彰致します。

令和五年二月一六日

タマムラデリカ株式会社
代表取締役社長　髙橋　康之

表彰状

EA21アワードカップの授与

トップシュリンク化した商品

	候補PJ	工場名	リーダー	所見コメント(代表)	総合点数	決選投票
①	食品残渣の削減	本社工場	山崎　秋晴	導入までの時間をかけての検証、工場にマッチした機種選定、効果は検証はニヶ月余りだが結果が現れている事を評価。 今後、他工場拡大等拡張性を検討してほしい。	10	―
②	群馬工場増設プロジェクト	本社工場	山崎　秋晴	経費削減効果大である事評価します。	25	3
③	二酸化炭素排出量の削減	美野里工場	宇佐美　尚輝	取組の検証が未確認な事が残念。 次回数値検証お願いします。	1	―
④	ｸﾘｰﾝｴﾈﾙｷﾞｰ都市ｶﾞｽﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ	佐野田沼工場	田所　進一	年間通じてCO2削減に大きく貢献した事を評価。	11	―
⑤	トップシュリンク化	商品開発部	古谷　邦彦	構想から5年、テスト販売～北関東全域に繋げた事は評価、又、北関東から来期商品政策として全国へ発信した功績は高い、期間が2か月余りと少ないが継続して推奨している事、その後の推奨もアイテムも決定している事並びにエコ・経費削減の観点でも評価。	25	5

審査結果

包装形態

トップシュリンク化
蓋・包装バンドを無くし、
プラスチックを削減

2022年11月末～7末

8商品販売

製造数実績　70.1万P

プラスチック削減量5.86t
CO_2排出削減量　2.99t

（1回目の投票で同票だったため決選投票を実施）

【準グランプリ】

群馬工場
「群馬工場増設プロジェクト」

【選考理由】

導入までの時間をかけての検証、工場にマッチした機種選定、効果は検証はニヶ月余りだが結果が現れている事を評価。　今後、他工場拡大等拡張性を検討してほしい。

タマムラデリカ株式会社　代表者による全体の評価と見直し

各工場毎に様様な取組を展開し効果検証、水平展開を実施していくルーティンが形成出来た年度と判断する。
一部工場では検証業務に追いつかず引継ぎ未実施も散見されるが月1開催のEA21本部ミーティングにて情報共有、検証報告を定着していく。
又、コロナ禍とは言え、ｗｅｂミーティングだけでなく本部事務局支援(工場現地に赴く)を工場事務局と共に現場確認する時間が取れなかった事は反省点。
2023年度はコロナが第五類に移行し人の往来が緩和される。
目的を持って本部事務局にて現地確認、情報共有を実施する。

これらを踏まえて2023年度は我々が加盟しているＮＤＦ(日本デリカフーズ協同組合)環境促進部会主導による、省エネ診断の実施を具現化していく。
2030年に向けた具体的なロードマップの策定を全工場で取り組む。

課題として

①人材育成(EA21以外も含め)
・若手、中堅の抜擢と専門職中途採用の実施
・EA21活動における資格等々の手当支給検討
目的⇒EA21の持続的活動の実現

②商品規格自体の設計並びに製造体制の見直し
・包材点数を軽減した商品規格の実現(自社開発より実施)
・包材材質をプラ製⇒紙又は分解性素材へ切替(自社開発より実施)
・商品の賞味期限延長(鮮度延長)の実現(製造時間の圧縮、茹で釜使用時間圧縮)
目的⇒廃プラ削減、化石燃料使用量削減

③CO2削減に向けた設備入替え
・省エネ診断による高効率空調設備入替え
・送迎車含む社用車のEV、HV化推進
・CO2フリー電力の導入
目的⇒CO2削減

④サプライチェーン全体として有機的結合
・自社農場活用による地産地消(地域産業の育成)、配送距離(CO2削減)、中継冷蔵庫レス(ユーティリティーコスト減)の取組促進
・グループ会社含む、4工場商品配送物流の最適化(配車台数減によるCO2削減)
・取組実績ある機器類、システム(ゴミ処理施設、減容機、廃食油ボイラー等)の水平展開
目的⇒CO2削減及びユーティリティーコスト減

これらを実現し、従業員が働きやすく且つ、社会貢献にも実感できる持続可能な企業活動を目指して参ります。

2023年7月18日

タマムラデリカ株式会社　常務取締役

髙橋　康之

タマムラデリカ株式会社　環境関連法規制の遵守

1．当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	遵守事項	遵守状況
水質汚濁防止法	特定施設の届出・管理	遵法
騒音規制法	特定施設の届出・管理	遵法
振動規制法	特定施設の届出・管理	遵法
浄化槽法	保守点検実施、法定検査実施	遵法
廃棄物処理法	委託基準（契約書・許可証）、マニフェスト交付・保存及び交付状況報告	遵法
水銀使用製品産業廃棄物の管理	契約書、マニフェストに排水銀の記載 排水銀専用の置き場	遵法
消防法	特定施設の届出・管理管理	遵法
PRTR法	使用量・購入量の把握	遵法
毒物及び劇物取締法	施錠管理、使用量把握、貯蔵場所の表示、漏、流出の防止	遵法
水道法	定期検査実施	遵法
省エネ法	措置の実践	遵法
フロン排出抑制法	簡易・定期点検	遵法
食品リサイクル法	発生抑制・再利用・熱回収・減量	遵法
容器包装リサイクル法	再商品化・帳簿保存・表示	遵法
大気汚染防止法	ばい煙発生施設の届出・管理	遵法
茨城県霞ケ浦水質保全条例	特定施設の届出・排水水質検査の実施	遵法
群馬県の生活環境を保全する条例	特定施設の届出・管理	遵法
玉村町公害防止協定	公害の防止	遵法

2023年2月1日の環境関連法規遵守状況の確認において、環境関連法規への

違反はありません。

尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。